

初年次教育で日本語力アップの特別講座

城西国際大学経営情報学部

日本語が好きだから



大学で新入生に対して、高校から大学への円滑な移行を図るために、初年次教育を取り入れる大学が増えています。文部科学省調べによると、8割以上の大学が新入生向けプログラムを組んでさまざまな取り組みをしています。城西国際大学（柳澤伯夫学長）の経営情報学部（野澤建次学部長）では、1年生全員約350人以上を対象に、初年次教育の一環として日本語力アップのための特別講座を開講し、日本語検定の3級合格を目指しています。（文責：時事通信社編集委員 牧俊朗）



東京紀尾井町キャンパス

副学部長の早田巳代一教授に伺いました。「この特別講座は、必修科目『基礎ゼミⅠ』（年30コマ）の一つとして、年1回、3コマ実施されています。専門教科を履修していくために必要な基礎教育であるとともに、学生のキャリア形成教育の役割を担っており、今年度は9月13、14の両日、千葉東金キャンパスと東京・紀尾井町キャンパスでそれぞれ4月入学の1年生を対象に実施しました。また、この特別講座に引き続き11月に行われる日本語検定まで、学内の教授が、日本語力のアップに向けた指導をしていくことにしています。」

14日に行われた紀尾井町キャンパスの特別講座では、日本語検定委員会の認定講師で群馬・明和県央高校の西野博子主任教諭など3人が講師となり、約150人の学生が3クラスに分かれて受講しました。

講座は、日本語検定の六つの出題領域を、午前は「語彙、言葉の意味、漢字、表記」、午後からは「文法」、「敬語」と三コマに分けて、各90分で開催。それぞれ過去問題を演習したあと、講師が解説・講義。最後に、日本語検定3級の模擬試験に挑戦しました。

西野講師は、「語彙、言葉の意味、漢字、表記」の講義の中で、学生に対して「日ごろから読書量を増やすとともに、生活で触れる言葉に注意して、意識して少しでもたくさんの言葉を覚えて欲しい。語彙が豊富な年配の人と言葉を交わしたり、知らない言葉に出会ったりした場合は携帯などでその意味をチェックすることができる」などと、語彙力を高めることを強調。

さらに「社会のトラブルの原因は二つ。一つはお金で、もう一つは物の言い方。語彙が少ない人は、このトラブルに巻き込まれる可能性が強い」などと、注意を促しました。

また「敬語」では、「敬語が使えるということは、社会人としての常識を持っているということに繋がる」などと、結びました。

